

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 5 月 9日

事業所名 みずふね体操クラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		当法人が所有している体操教室の体育館も利用している。	規定に基づき行っている。
	2	職員の配置数は適切である	○		職員対児童2名ができています。	指定基準を満たしている職員配置となっています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		つまづき防止のステップや全体を見渡せる様にはめころしの窓を設置しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃の中で利用者様が触れる物や場所の適切な消毒作業を行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		LINEを用いて直接伝えられない時間や場面でも情報を共有したり報告や相談ができるようにしています。	今後もリモートでも情報を共有したり伝達できるツールを活用して具体的な支援策や改善策などを生み出せるようにしたいと思っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者様から頂いた意向に沿えるような支援ができるように今後も保護者様と連絡を取りながら進めていきたいと思っています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに掲載しております	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		他事業所責任者の方よりアドバイス・業務チェック・情報交換をさせてもらっています。	頂いた情報を記録にまとめて職員間で共有、使用して日々の業務をより確実に行えるように計画しています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		無資格の方には行動援護従業者養成研修に積極的に参加してもらっています。	職員が大阪府や他事業所が主催する研修に参加したら、その内容を他の職員に共有する機会を設けます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用者様一人一人の計画期間を把握し、常に見直しや次の課題などを検討する機会を設けています。	職員が利用者様に関して気づいたことや支援したい事柄などがあればLINEで伝えていくよう呼びかけて情報を共有し、より良い支援計画を作成します。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準のアセスメントツールを使用している。保護者より提出頂いた検査結果の支援意見を使用。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			運動療育を中心に選択している。今後支援できる選択された項目を増やし具体化する事を目標とする。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個人情報の取扱いに注意した上で全職員が確認できるよう個別支援計画を閲覧できるようにしています。	行っています。支援する指導員のさらなる共通認識を高めていきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		事業所内の会議にて立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用する子供達や時間などに合わせて柔軟な対応を行いプログラムしています。	利用する時間が有意義で充実したものとなるように工夫していきたいと思っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動の中に個人の目標を可能な範囲で組み込んでいます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日より職員のLINEを利用して、内容を確認できる様になっている。	今後さらに細かい所まで確認できる様にする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		限られた時間の中で行っているが、振り返り方法なども見直しさらに充実したものにする。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		リムを利用し、個人記録を残し改善につなげている。	職員間のLINEを用いて早急に対応した方がいゝ事象も共有して改善に繋げていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		利用者様一人一人の計画期間を把握し、常に見直しや次の課題などを検討する機会を設けています。	個別に対応した細やかな見直しを目標とする。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管もしくはその子供の状況をよく理解している児童指導員が出ている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在該当する方はおられません。今後必要な場合は支援体制を整えます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在該当する方はおられません。今後必要な場合は連絡体制を整えます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		可能な限り行っております。保護者を介して共有・理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		可能な限り行っております。保護者を介して共有・理解を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児発管が定期的に可能な限り研修に参加し、指導員へ伝えている。	相談や助言をいただく機会があれば積極的に参加します。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		当法人が運営している体操教室を利用して交流の場を設けていける様検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		児発管が子育て支援リーダーをしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話だけでなく伝え合いを行いやすくする為の連絡環境としてLINE@の登録をお願いしています。	今後さらに個別に共通理解を持ち対応する事が目標である。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		実施していく事を目標とする。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時には、必ず責任者が対応し説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			説明・同意はできている。十分ではないと考え課題とする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			できる限りで行っている。十分ではないと考え今後職員への研修・勉強を行い必要な支援の質を深めていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在保護者会等の開催は行っていない。今後イベント開催などにより連携を深めていく事を目標とします。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談受付に関するマニュアルと様式があるため各職員が受け付けから記録、確認できるように整備しました。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	連絡体制等についてはLINE@にて対応、発信している。	活動概要や様子なども発信する事を目標とする。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		取り扱いを最低限にし、注意するよう周知している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			見学して頂き直接お話する事で充実にしたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域交流の機会の提供実施に向け、方法を探りたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		職員には、マニュアルをまとめ事業所内に壁掛けされ周知している。保護者には契約時に説明を行っている。	職員間での研修を定期的に行い、利用者様各位には情報を発信していくようにします。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		活動状況に合わせて年に2回行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○	アセスメントなど保護者様から伺った情報を記録して必要な場合に共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	契約時に責任者が保護者に確認を取っている。	受け入れているお子様であれば、準備し対応する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例があった場合は、作成後職員間での回覧、押印を行っている。	職員一人一人が気づいたら記入して周知するような流れを形成している。また職員間のLINEを用いて共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		義務化に伴い年間行事に組み込みました。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		職員間で研修を行っています。保護者様にもそのような事象があった場合は直接もしくはお電話で説明させていただきます。	保護者との面談時に口頭で伝え了解を得ている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。